

# 令和6年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号

75

長野県梓川高等学校

## 学校教育目標

- (1)「高き理想」を持ち、その実現に向け、自ら考え行動できる人材の育成。  
 (2)「心ゆたかに」生きて行く人間力あふれた人材の育成。  
 (3)地域の学び・経験を通して自信を高め、地域を支え、地域をリードする有為な人材の育成。

## 重点目標

- (1)生徒一人ひとりの力を最大限伸ばすため、きめの細かい学習指導を行う。  
 (2)生徒一人ひとりの進路希望実現のため、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。  
 (3)学習活動、生徒会活動をはじめとする諸活動を通じて、生徒の自律が図られるよう支援する。  
 (4)生徒が安全で安心して生活できる、いじめや体罰のない学校づくりをさらに推進する。

評価 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない  
 2: やや不十分 1: 不十分

\*「評価項目」の( ) 数字は、今年度重点目標の項目番号

| 領域   | 対象   | R06 評価項目                 | R06 評価の観点                                                                                     | 本年度の成果と課題                                                                                                 | 評価 | 具体的な改善策・向上策                                                                                          |
|------|------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育活動 | 学習指導 | (1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導 | 生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。朝学習を通して基礎学力の定着が図られたか。                                      | オンライン職員会議を設定したり、職員研修でロイノートを利用したりするなど日常的な活用に向けて取り組んだ。観点別評価については1学期に振り返りを行った。また、授業見学や公開授業のアンケートを回収し共有した。    | 4  | ICTの活用について中学校からの継続的な学びを確保するためにロイノートを導入することを学校として対応することを検討したい。また、各教科の観点別評価の基準を年度当初に共有フォルダに提出し、共有をはかる。 |
|      |      | 授業評価による授業改善              | 体験学習、授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。                                      | アンケートで、「授業がわかりやすい」「テスト前後に」といった声を多数得た。思考力、判断力、表現力をより一層協働的な学習活動を取り入れていくことが課題。                               | 4  | 引き続き、授業アンケートや生徒の振り返りを職員間で共有し、授業改善に務める。                                                               |
|      | 進路指導 | (1) 3年間を見通した計画的な進路指導     | 学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適切に活かしているか。                                           | 各学年時期を見て必要な情報を冊子等を通じて生徒に渡し、進路の現状について確認をしている。                                                              | 4  | 早い段階からの進路への意識付け及びオープンキャンパスや企業見学の参加も促したい。                                                             |
|      |      | 進路希望の現実と職業理解の促進          | 働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、企業勉強会、ワーキングセミナー等の実施ができたか。                     | 1年は将来を見据えて、進路を小さくくりで考えさせており、2年は次年度の就職・進路に繋がる指導として各種ガイダンスを実施した。3年は進路実現に向け活動し、就職・進学ともに多くの生徒は決定している。         | 4  | 更なる企業研究及びしつかりとした試験準備が必要。進路ガイダンス・企業説明会も引き続き適宜実施したい。                                                   |
|      | 生徒指導 | (1) 基本的な生活習慣の確立          | 全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。                                                     | 成果として自転車ヘルメット補助金の申請を初実施し、31名が申請した。課題はヘルメット着用の周知と指導、闇バイトやポルノ系画像流出の指導。                                      | 3  | 学年集会や頭髪検査等の確認時に生徒個人や全体への周知する。                                                                        |
|      |      | 生徒相談体制の充実                | 生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。                                                         | 本年度は相談室を開室し、支援体制を整える一方、面談週間や学校生活アンケート等を活用し、生徒状況の把握につとめ、支援に繋げることができた。月1回程度の特別支援委員会を実施し、職員間での情報共有を図ることができた。 | 3  | 相談室については生徒が必要な場面で活用できるよう、運用については今後も検討していきたい。引き続き教員間、SCやサポマネとの連携を図り、生徒支援の体制を整えていきたい。                  |
|      | 生徒会  | (3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成    | 生徒の主体的な活動を支援し、主体的・対話的な学びによる自己肯定感を育てることができたか。安全に配慮し、活動することができたか。                               | 今年度の生徒会目標達成のため、執行部として新たな取り組み(HATAビンゴワーク)を考え実施することができた。企画立案に時間がかかり、広報活動が不十分になってしまった。                       | 4  | 文化祭では、熱中症予防や体調管理の観点から、日程調整や企画内容の精査を行う。執行部内で生徒会諸活動の目的を理解し、それを全校生徒に伝え共有して活動に取り組む。部室の使用状態の改善を継続して呼びかける。 |
|      | 学校運営 | (1) 学校評価の充実              | 学校評価を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。                                                                   | 生徒や保護者アンケートをオンラインでも回答できるようにした結果、回答数が増加した。結果を職員会で共有できた。                                                    | 4  | 今後も生徒や保護者、地域からの声を職員間で共有し、教育活動の向上と改善を図る。                                                              |
|      |      | (3) 情報提供                 | 本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。                                                         | 通知については、紙の配布に加え、メール配信をすることで確実に保護者に伝わるようにした。また、行事についてはその都度HPに掲載した。                                         | 4  | 月歴だけでなく、他の通知も紙ベースでの配布からメールでの配信に変更し、情報が確実に保護者に伝わるようにする。                                               |
|      |      | (1) 地域と連携した教育            | 地域と連携した学習や体験活動を通して、生徒の学習意欲を引き出しているか。                                                          | 地域の方を講師として招き、歴史、産業、福祉等について学んだ。また、松本市議会との交流や発表会は、生徒たちが地域の課題や魅力を知る貴重な機会となった。                                | 4  | 教科指導や生徒会活動、キャリア教育等において、引き続き地域と連携し、生徒が地域と関わり、地域について学ぶ機会を増やす。                                          |
|      |      | (1) 授業・学習指導法の改善          | ICTの活用やオンライン授業、新教育課程の観点別評価方法等、新たな学びについて研修を行い、教科指導で実際活用することができたか。公開授業・研究授業の振り返りにより指導改善につながったか。 | 職員のタブレット端末を用いて職員会を実施できた。ICTの活用や新教育課程の観点別評価方法について職員研修を実施し、職員間で情報共有ができた。計画していた公開授業がすべて実施できた。                | 4  | 来年度は全学年で新教育課程が実施される。情報共有をして適切な学習評価になるように努める。ICTの活用のさらなる普及について、職員間の研修や公開授業など学校全体での取り組みが必要である。         |
|      |      | 生徒の理解                    | 多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。                                                                | 特別支援委員会が自殺予防研修を受け、伝達講習を実施した。また、1学年を対象として外部講師に講師にSOSの出し方講座を実施し、職員にとっても研修の機会となった。                           | 4  | アセスの研修や生徒対象の講座も計画しながら、来年度も引き続き、生徒理解につながる研修を充実させていく。                                                  |